

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者の希望に沿いながら、職員が利用者に寄り添い、熱心に教えながら、スモールステップで成長を後押ししている
	内容	事業所では、利用者が希望する作業を、希望する曜日、時間帯、好きな頻度でできるようにしている。利用者の希望を書き込んだベース表が作業の基本になっており、週ごとに作成をして利用者に伝えている。作業内容を細分化したり、雑務的作業を切り出して、どのような利用者でも携われる作業を提供している。その中で修練度を高める仕組みもあり、スモールアップで徐々に作業の幅を広げて、最終的に全ての工程ができるようにしている。職員は利用者に寄り添い、熱心に教えながら、利用者の成長を後押ししている。
2	タイトル	事業所では、定期的にミーティングを開催しており、職員や利用者が意見を出しやすい環境を整えている
	内容	事業所では、毎月利用者のミーティングを開催することで、日々の活動における情報共有を行っている。また、年度初めのミーティングでは、事業所の重要事項を伝えている。事業所には意見箱も設置されており、利用者が自由に発言できる場や機会が設けられている。職員も比較的、勤続年数が長く、職場に定着していることから、風通しが良い職場環境であることがうかがえる。新事業所の移転についても、職員や利用者が自由に意見交換することで、事業運営のさらなる充実化を図ることにつながっている。
3	タイトル	職員間で利用者の状況や変化に関する情報を共有し、適切な支援を提供できるようにしている
	内容	職員は、利用者の状況をよく把握し、利用者の状況に変化があれば、アセスメントシートの見直しに結びつけている。支援計画の見直しの際には、振り返りを通じて短期目標の達成状況を評価し、新たな目標が必要かどうか、職員間の話し合いで検討した上で、決定している。常勤職員全員で承認会議を実施しているほか、朝のミーティングや終礼時に情報交換を実施し、職員全体で利用者支援に必要な情報を共有している。さらに、支援ソフトの導入により、支援記録等の共有化も図っている。利用者の変化を見逃さず、タイムリーな支援につなげている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員のキャリアパスを明確にし、組織として個々の職員の育成を計画的に実行していくことが期待される
	内容	事業所では、職員の希望を取り入れながら、必要なスキル獲得・向上を目的として、職場内外で研修の実施を行っている。しかし、職員個々の育成計画までは策定していないため、個々の計画的なキャリア形成に関しては、改善の余地があると思われる。今後は職員の希望を尊重しつつ、組織として職員個々の人材育成計画等のキャリアプランの作成を行い、計画的な研修の実施を行うことで、さらなる職員の働く意欲の向上や育成につなげていくことに期待したい。
2	タイトル	利用者との個別面談を実施する上での工夫を重ねていくとともに、新たな事業所でのプライバシー保護の充実に期待したい
	内容	事業所では、利用者との個別相談等に使えるスペースが不足している。現状では、利用者本人の理解を得た上で、社用車の中で実施したり、喫茶や他事業所へ訪問する際に合わせて面談を設定するなど、会話の内容を他者に聞かれることがない状況を作っている。現在の建物の構造上、更衣や相談の場所については制限があるため、移転を検討している。新しい事業所では、こうした課題を解消し、利用者も職員も心地よく面談等が行えるようにしたいとしている。現在の事業所において実施可能な工夫を重ねながら、新たな事業所での取り組みにも期待したい。
3	タイトル	完成予定の事業継続計画の周知を図るとともに、新事業所におけるリスクマネジメントの進展にも期待したい
	内容	事業所は事業継続計画の策定を進めている。自然災害と感染症に関する対策内容を中心にまとめており、今後は職員や利用者等に対して、計画内容の周知を図ることで、事業の安定的な運営につなげていく予定である。また、事業所は次年度に移転を予定しているため、新事業所における事業の継続についても、当該計画の運用が求められる。新事業所におけるリスク管理については、現在の事業所とは異なる点も存在すると考えられるため、新事業所における運営を行いながら、定期的に見直しを図る必要があると思われる。今後の取り組みの進展に期待したい。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	事業所は地域のニーズを把握し、地域に対して積極的に貢献できるよう取り組んでいる	
内容①	<p>事業所は、地域の行政機関や関係機関と連携を図るため、ネットワーク会議に参加したり、地域の高齢者向けにカフェを開く等、日々意欲的に対外活動を展開している。地域住民と自然に触れ合う機会をもつことで、障害等で生き辛さを抱える方々の存在を身近に感じてもらうアピールにもつながっている。また、専門職実習生や地域の学校の学生を受け入れることで、将来の担い手の育成にも力を入れている。障害についての理解や援助技術について、他機関に積極的に発信することで、地域全体の福祉水準の向上につながっているものと推察される。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	個別の支援計画等に基づいて、利用者の望む自立した生活を送れるよう支援を行っている
タイトル②	安定的な通所やそのための環境整備等、自立のための生活支援に力を入れている	
内容②	<p>事業所では、利用者一人ひとりの状況を把握し、安定的な通所ができるような環境整備や、そのために必要な生活支援に力を入れている。就労支援の事業所であるため、作業が中心であるが、利用者の安定した生活や作業につながるために、本来は他関係機関に任せてしまう生活支援にも取り組んでいる。通所や自立生活を阻害している原因を取り除くために家族関係を調整したり、必要に応じて通院同行や訪問により、利用者の生活の安定を図っている。就労に向けて、利用者が作業を通じて自信を持つことに加え、生活面でも寄り添っている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している
タイトル③	通所予定や行事参加について、利用者の希望を実現するようにしている	
内容③	<p>事業所では、通所予定や行事への参加において、利用者の意思を尊重している。白紙のシフト表を活用し、利用者の要望を具体的に聞き取り、通所スケジュールを組み立てている。通院やデイケア等の予定を記入してもらい、欠勤も認めている。予定が出来上がった後、2週間先までのスケジュールを事業所内に掲示している。利用者一人ひとりのスケジュールは基本的に固定されているが、それ以外の希望事項についても記入してもらうようにしており、できる限り実現するように努めている。また、行事等は希望制になっており、利用者本人の意向を尊重している。</p>	